

# ロイロノート活用型授業による「公共」と「倫理」の科目間接続

新潟県立碧高等学校教諭（実施時／新潟県立新潟江南高等学校）

加藤 直樹

## 1. はじめに

高等学校では「公共」と「倫理」が科目として連続配置され、「公共」は現代社会の課題や価値を扱い、「倫理」は先哲の思想を通してそれを問い直す。しかし両科目には重複が多く、必修科目「公共」と選択履修科目「倫理」の接続は十分とは言えない。

そこで「幸福」という抽象概念をテーマに、「公共」で培った課題意識を「倫理」で深化する授業実践を行い、ロイロノート・スクール(以下、ロイロノート)でワークシートを可視化し思考変容を捉えた。狙いは、「公共」で芽生えた社会的課題への関心を、「倫理」の概念で論理化し、学年間で学びを連続させることにある。

上原(2014)は『「倫理」という科目の面白さと有効性は『考える』姿勢を身に付けることにある』と述べる。上原がセンター試験を念頭に置いた当時よりも、大学入学共通テストでは一層「考える」姿勢が求められる。

また、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編」は、公民科の目標を「現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う」と示す。これを踏まえ、生徒の思考変容を促す際にロイロノートなどのICTツールを活用した。なお、筆者はロイロノート認定ティーチャーとして授業を継続しており、その経験を生かした。

## 2. 授業の実践

### (1) 高校2年次「公共」における導入

高校2年(6クラス・242名)で現代の諸課題を扱う実践を行い、数研出版『新版 公共』pp.46-59.「第2節 現代の諸課題と倫理」の資料を活用した。この節には、現代の諸課題がテーマ毎に整理されており、生徒がレポートを書く際に参考にしやすい。各テーマを紹介後、夏季休業課題として「地球環境

「資源・エネルギー」「生命」「情報」の各倫理的諸課題のいずれかを選択しレポートに取り組みさせた。

対話的学びには自己との対話も含まれるため、課題はロイロノートで設定し生徒はいつでも取り組めるようにした。さらに質問箱を設け、夏季休業中であっても、いつでも質問や相談がしやすいように配慮した。実際に利用する生徒もおり、レポート構成や書き方の相談があった。

ワークシート(図1)は1枚形式で文字サイズとページ数を指定せず自由に記述できるようにし、指針として「題意把握、内容理解」「論理構成、考察力」の2観点で、ループリック評価を示した。

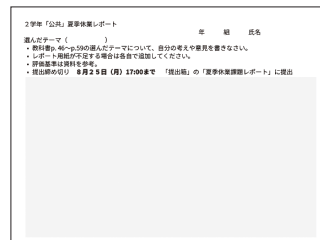


図1 「公共」ワークシート(夏季休業課題)

生徒は課題提出後、掲示板アプリのPadletで共有しコメントを付け合った。「生命の倫理的問題を調べ新たな知識を得られた」「同じテーマでも視点が異なり面白かった」といった感想に見られるように、課題追究能力や多面的視点の獲得が達成された。

一方、倫理的概念を用いた生徒は約1%で、「倫理」で目指す概念活用には至らなかった。つまり現代の課題への関心を倫理的価値へ高めるには、「倫理」で学ぶ哲学的概念を思考の道具として使う必要がある。この気づきこそが、2年次「公共」と3年次「倫理」を有機的に結びつける授業設計の出発点となった。

高校3年「倫理」ではワークシートをさらに工夫し、倫理的概念を活用して生徒の考えが形成できるようにした。同一生徒が持ち上がったわけではないが、カリキュラム全体で2年「公共」→3年「倫理」と学びが深化する流れを意識して授業を構成した。

(2) 高校3年次「倫理」における深化

高校3年(1クラス・35名)の「倫理」では、心理・認知・源流思想を学んだあと、数研出版『倫理』pp.74-75.「Thinking Time」を利用して「幸福とは何か」を考察した。「Thinking Time」のあとには源流思想のまとめが掲載されており、思想家や哲学者の概要を迅速に再確認でき、考察の足場として有効である。このように哲学の基本知識を再確認した上で学習を進め、「幸福とは何か」という抽象的課題を設定した。

課題はロイロノートで配布し、一週間以内ならいつでも提出可とした。ワークシート(図2)はフィッシュボーン図を採用し、「幸福とは何か」の問いに先哲・級友・自分の考えを結びつけ多角的に考察した。

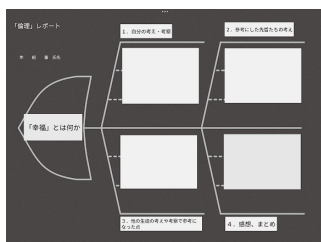


図2 「倫理」ワークシート(フィッシュボーン図)

生徒はワークシートに「思想と自分の幸福観とのつながり」を記述し、ロイロノートで全体共有した。互いにコメントしながら、自分の考えを言語化・再構成し、表1のように抽象的概念を具体的な生活の実感に引き寄せた。

表1 生徒の変容(代表例)

生徒	事前アンケート	授業後ワークシート	変容のポイント
S1	笑顔になれるもの	イエスの愛の考えから差別なく、自分が認められ愛されること。	個人志向→公共性
S2	幸福は制限の中で得られる。	どんな物でも元々は同じ価値であり、自分の価値観によって幸福が異なる。	快楽的幸福→哲学的調和

生徒からは「ロイロでまとめ、自分の考えが明確になった」「掲示板で他人の意見を見て、学びが深まった」などの声があり、ロイロノート活用が思考の深化と学びの広がりに寄与した。

3. まとめ

本実践に関するアンケートでは、2年生は9割以上、3年生は全員が肯定的であった。アンケートは4件法(4「そう思う」～1「そう思わない」)で、肯定的評価は4・3の集計である。

表2 アンケート結果(2年生:225人, 3年生:33人)

学年	項目	肯定的評価(%)
2	Q1 ロイロノートの活用が有効だったか	98.6
	Q2 社会事象への関心が高まったか	96.8
3	Q3 ロイロノートの活用が有効だったか	100
	Q4 授業を通して、内容への関心が高まったか	100
	Q5 ロイロノートの利用は自分の意見を深めることに効果的だったか	100

以上の量的結果に、自由記述「考えを整理できた」「他者の意見で視野が広がった」等の質的所見が重なり、学習意欲と思考の深化の双方で効果が確認できた。

この成果を踏まえると、「公共」と「倫理」をつなぐ本実践は、ロイロノートを用いたワークシートにより学習指導要領が掲げる「多面的・多角的に考察する力」を具現化した好例だと言える。ワークシートを即時に共有したことで、生徒同士の意見交換が活発になり、思考の変化をより明確に捉えられた。この成果を通じて、筆者自身も両科目をつなぐ授業設計の重要性を改めて実感した。今後は「幸福」に加えて「自由」や「平等」など多様な哲学的概念を扱いたい。

さらに今回の試みは、学年間の持ち上がりが少ない状況でも、「公共」で培った課題意識を「倫理」で思想的に深化させる流れを意識的に設計した点に意義がある。単発の実践であっても、両科目の学びをカリキュラム全体で連続させる視点を持つことで、生徒に一貫した探究体験を提供できた。本実践で得た示唆を今後の授業改善に活かしていきたい。

【参考文献】

上原雅文(2014)「高校「倫理」を学ぶということ」『数研AGORA』(61)1-4  
 文部科学省(2019)「高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説 公民編」  
 文部科学省(2023)「次期教育振興基本計画について(答申)」